

社会の持続的な平和と発展に向け、世界中のどこにおいても、地域や世界の「より善い未来」を創造できるリーダーを育成

重点的に育成する
資質・能力

様々な場面で活用できる「知識・技能」(Content)の深い理解 / 新しい価値を生み出す「創造的・批判的思考力」(Creative & Critical thinking)
異なる文化・価値観を持つ人々と「協働する力」(Communication & Collaboration) / 目標に向かって「やり抜く力・自信」(Confidence)
日本語だけでなく英語でも議論・協働できる「高い語学力」(Language proficiency)

教育課程 (案)

～日本の高等学校卒業資格と同時に
国際バカロレア・ディプロマを取得可能～

【凡例】授業での使用言語

日本語 ⇄ 英語

≪1週間あたりの授業時間数イメージ≫ ～高2・高3は国際バカロレア・ディプロマプログラムに対応

高3	言語と文学 (母語)		経済 グローバル政治 歴史 環境システムと社会 <選択>			数学	物理 化学 生物 環境システムと社会 <選択>			芸術	言語習得 (外国語)	TOK, CAS (未来創造科)	体育	H	R		
高2	言語と文学 (母語)		経済 グローバル政治 歴史 環境システムと社会 <選択>			数学	物理 化学 生物 環境システムと社会 <選択>			芸術	言語習得 (外国語)	TOK, CAS (未来創造科)	体育	保健	H	R	
高1	現代の国語	言語文化	地理総合	歴史総合	公共	数学I	科学と人間生活	芸術	英語コミュニケーションI	アカデミック英語	総合的な学習の時間 (未来創造科)	体育	保健	家庭基礎	情報I	H	R
	留学生 現代の国語	言語文化	地理総合	歴史総合	公共	数学I	科学と人間生活	芸術	英語コミュニケーションI	日本語演習	総合的な学習の時間 (未来創造科)	体育	保健	家庭基礎	情報I	H	R
中3	国語	社会		数学		理科	音楽美術	外国語 (英語)	英会話	総合的な学習の時間 (未来創造科)	保健体育	技家	道徳	特別活動			
中2	国語	社会	数学		理科	音楽美術	外国語 (英語)	英会話	総合的な学習の時間 (未来創造科)	保健体育	技術家庭	道徳	特別活動				
中1	国語	社会	数学		理科	音楽美術	外国語 (英語)	英会話	総合的な学習の時間 (未来創造科)	保健体育	技術家庭	道徳	特別活動				

3 海外大学でも通用する「実践的な英語力」の習得

- ▶ 高校段階では留学生とともに各教科で英語による授業を履修
- ▶ 中学校段階から系統的に英語力を強化するプログラムを用意

≪系統的な英語教育プログラム≫

区分	中1	中2	中3	高1	高2	高3
特設科目	英会話 (ネイティブ講師等) 【週2コマ】			アカデミック英語 【週2コマ】	IBDP言語習得 【週5コマ】	
各教科	英語での授業割合 (日本語)					
	(英語)					
海外研修		約2週間 (現地での課題解決プロジェクトを実践)		約3週間		

※上記のほか、寮生活では多国籍な仲間と英語でコミュニケーション

1 各教科で学んだ知識を活用し、協働して実社会の課題解決に取り組む「未来創造科」

(※「総合的な学習の時間」の授業時数を充実(通常:週2コマ→3コマ)するとともに、IBDPでは「TOK(Theory of Knowledge 知の理論)」、「CAS(Creativity 創造性/Action 行動/Service 奉仕)」の時間を活用して実施)

- ▶ 「社会の持続的な平和と発展」をテーマに、自ら課題を設定し、学年横断のチームで、その解決に取り組む「プロジェクト学習」を実施
- ▶ 「答えが1つに定まらない問題」に対する生徒のチャレンジや失敗を奨励・尊重

≪プロジェクトステップのイメージ≫

区分	内容
ステップ3 高2～高3	◆「卒業プロジェクト」として、県内企業・NPO・大学など、多様な主体と協働し、生徒自らが設定した課題の解決に取り組む(ソーシャルアントレプレナーとしての起業、NPO法人・社団法人の設立など)
ステップ2 中3～高1	◆高校から入学してきた留学生とチームを組み、グローバルなトピックに関する議論や協働活動を実施
ステップ1 中1～中2	◆「学び方」を学ぶ(情報の整理分析/様々な表現や発表の仕方/振り返り等)とともに、大崎上島の地域資源(ex. 海, 自然, 産業, 地域のつながり等)を活用した学習活動を実施

2 海外大学へも進学できる「国際バカロレア・ディプロマプログラム (IBDP) ※」

- ▶ 「より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心・知識・思いやりに富んだ若者の育成」という理念に基づくプログラム
- ～2年間の履修後、最終試験で所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格を取得可能 (※世界2,000以上の大学が同資格を採用)

≪IBDPにおける教育活動のイメージ≫

区分	内容
歴史の授業における「指定学習項目」	◆「紛争と介入」「世界規模の戦争への動き」「権利と抗議運動」など5つのテーマの中から1つを選んだ上で、異なる2つの地域の事例を自ら選択して研究
歴史に係る試験課題の例	◆「アフリカ又はアジアで21世紀に誕生した国家を1つ選び、その主要な国内問題と、それらがどの程度解決されたかを論ぜよ」

※導入に際しては、申請から認定までに関心校・候補校・認定校の段階があり、各段階には明確に区別された申請項目とタイムラインがある。どのプログラムにおいても、IB認定校を目指す全ての学校は、この各段階を経る必要があり、IBが認定の可否に関する裁量を有す。